

## グローバルFXポール・東京市場ランキング

# 金額シェアでUBSが2年連続トップ

ユーロマネー英語版2008年5月号に掲載したグローバルFXポール。

金額ベースのマーケットシェアについて、日本からの回答を抽出して日本語版独自に集計すると下記の結果になった。

マーケットシェア					
順位	銀行名	シェア	順位	銀行名	シェア
1	UBS	19.96%	11	BNPパリバ	1.51%
2	パークレイズ・キャピタル	17.37%	12	サクソ・バンク	1.40%
3	ドイツ銀行	16.58%	13	バンク・オブ・アメリカ	1.32%
4	リーマン・ブラザーズ	10.70%	14	三井住友銀行	1.11%
5	ゴールドマン・サックス	7.79%	15	RBS	1.01%
6	三菱UFJフィナンシャル・グループ	6.58%	16	HSBC	0.87%
7	シティ	3.92%	17	メリルリンチ	0.75%
8	JPモルガン	2.09%	18	スタンダード・チャータード	0.64%
9	ドレスナー	2.00%	19	住友信託銀行	0.59%
10	みずほフィナンシャルグループ	1.77%	20	モルガン・スタンレー	0.47%

### ■マーケットシェア・ランキング1位 UBSに聞く

#### 長年にわたる プラットフォーム構築で 高い流動性を確保



UBS銀行 東京支店  
外国為替部長 マネージング ディレクター  
デレック・リンゼイ氏

昨年に引き続き、UBSが東京外国為替市場において高い評価をいただき大変光栄です。チーム全員が一丸となって努力した結果と受け止めています。

主な成功要因としては、UBSが長年、外国為替業務に多大な投資を積み上げてきたことが挙げられます。当行でも、FXのプラットフォーム構築にかなりの投資を行ってきました。こうした磐石なインフラに支えられているからこそ、あらゆる時間帯、あらゆる市場においてお客様に高い流動性を提供することが可能となっています。

2007年後半からのFX市場を振り返ってみると、非常に変動が激しく、取引高も大きく膨らみました。こうした変動性の高い市場環境のもとでも、一貫して流動性を確保できたことが今回の高い評価につながっていると考えます。

近年、日本では多くの投資家がFXを重要なアセットクラスの一つと位置づけています。FX市場は拡大する傾向にあり、大手銀行との競争は一層、激しさを増すと予想されます。

当行は、主要な金融機関との取引業務をメインとしながらも、リテール業務などに力を入れ、UBSが得意とするウェルス・マネジメントにおいてもFXのニーズの高まりを実感しています。資産運用会社や生命保険会社など、機関投資家とのビジネスもさらなる成長が期待できるものでしょう。

マクロ経済の国際化の進展やエマージング諸国での通貨取引拡大などで、グローバル市場でもFXは成長を続けています。潜在的に高い成長力を持つFXビジネスにおいて、私たちは今後もより多くのお客様にご満足いただける質の高いサービスを提供してまいります。